

## 第 141 回日商簿記検定試験 模範解答

## 2 級

## 商 業 簿 記

## 第 1 問

	仕		訳	
	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1	当 座 預 金	240,000	受 取 配 当 金	300,000
	仮 払 法 人 税 等	60,000		
2	建 物	5,500,000	建 設 仮 勘 定	8,800,000
	構 築 物	2,200,000		
	修 繕 費	1,100,000		
3	買 掛 金	2,500,000	未 収 金	300,000
			普 通 預 金	2,200,000
4	仕 入	3,200,000	買 掛 金	3,456,000
	研 究 開 発 費	600,000	未 払 金	648,000
	仮 払 消 費 税	304,000		
5	商 品 保 証 引 当 金	1,000,000	貯 蔵 品	1,150,000
	商 品 保 証 費	150,000		

仕訳 1 組につき 4 点 合計 20 点  
(配点は、当学院の予想です)

## 第 2 問

## 問 1

## 売 買 目 的 有 価 証 券

7

日 付			摘 要	仕 丁	借 方	貸 方	借または貸	残 高
年	月	日						
26	5	1	未 払 金	3	98,600,000		借	98,600,000
	10	31	諸 口	10		29,580,000	〃	69,020,000
27	1	30	諸 口	15		39,440,000	〃	29,580,000
	3	31	有価証券評価益	18	60,000		〃	29,640,000
	〃	〃	次 期 繰 越	✓		29,640,000		
					98,660,000	98,660,000		
27	4	1	前 期 繰 越	✓	29,640,000		借	29,640,000

## 有 価 証 券 利 息

38

日 付			摘 要	仕 丁	借 方	貸 方	借また は貸	残 高
年	月	日						
26	5	1	未 払 金	3	120,000		借	120,000
	6	30	普 通 預 金	6		180,000	貸	60,000
	10	31	未 収 金	10		36,000	〃	96,000
	12	31	普 通 預 金	14		126,000	〃	222,000
27	1	30	未 収 金	15		12,000	〃	234,000
	3	31	未収有価証券利息	18		27,000	〃	261,000
		〃	損 益	18	261,000			
					381,000	381,000		
27	4	1	未収有価証券利息	1	27,000		借	27,000

問 2	有価証券売却 ( 損 )	¥ 490,000
問 3	① 満期保有目的債券の次期繰越額	¥ 98,875,000
	② 有価証券利息の当期発生額	¥ 605,000

1 つにつき 2 点 合計 20 点  
(配点は、当学院の予想です)

## 第 3 問

## 精 算 表

日商株式会社

平成 27 年 3 月 31 日

(単位: 円)

勘 定 科 目	試 算 表		修 正 記 入		損 益 計 算 書		貸 借 対 照 表	
	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方
当 座 預 金	195,000		20,000				215,000	
受 取 手 形	80,000			20,000			60,000	
売 掛 金	130,000			9,000			121,000	
繰 越 商 品	41,000		39,600	41,000			38,142	
				480				
				978				
消 耗 品	15,000			9,000			6,000	
仮 払 消 費 税	165,200			165,200				
建 物	3,000,000						3,000,000	
備 品	400,000						400,000	
の れ ん	144,000			24,000			120,000	
支 払 手 形		63,000						63,000
買 掛 金		120,000						120,000
仮 受 消 費 税		169,600	169,600					
借 入 金		800,000						800,000
退職給付引当金		380,000		35,000				415,000
貸 倒 引 当 金		9,200	7,000	1,420				3,620
建物減価償却累計額		490,000		82,500				572,500
備品減価償却累計額		144,000		51,200				195,200
資 本 金		1,500,000						1,500,000
利 益 準 備 金		150,000						150,000
繰越利益剰余金		48,820						48,820
売 上		2,120,000				2,120,000		
仕 入	1,150,000		41,000	39,600	1,151,400			
給 料	660,000				660,000			
支 払 保 険 料	4,920			2,460	2,460			
支 払 利 息	9,500		1,800		11,300			
	5,994,620	5,994,620						
貸 倒 損 失			2,000		2,000			
貸倒引当金繰入			1,420		1,420			
棚 卸 減 耗 損			480		480			
商 品 評 価 損			978		978			
消 耗 品 費			9,000		9,000			
(未払消費税)				4,400				4,400
減 価 償 却 費			133,700		133,700			
(のれん)償却			24,000		24,000			
(未払)利息				1,800				1,800
退職給付費用			35,000		35,000			
(前払)保険料			2,460				2,460	
当期純(利益)					88,262			88,262
			488,038	488,038	2,120,000	2,120,000	3,962,602	3,962,602

1 つにつき 2 点 合計 20 点  
(配点は、当学院の予想です)

## 工 業 簿 記

## 第 4 問 (20 点)

	仕 訳			
	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)	材 料	2, 440, 000	本 社	2, 440, 000
(2)	仕 掛 品	4, 140, 000	賃 金	6, 040, 000
	製 造 間 接 費	1, 900, 000		
(3)	製 造 間 接 費	90, 000	材 料	90, 000
(4)	仕 掛 品	2, 484, 000	製 造 間 接 費	2, 484, 000
(5)	製 品	7, 525, 000	仕 掛 品	7, 525, 000

仕訳 1 組につき 4 点 合計 20 点  
(配点は、当学院の予想です)

## 第 5 問 (20 点)

問 1	4, 500 万円
問 2	5, 500 万円
問 3	10 %
問 4	200 万円
問 5	40 万円

各 4 点 合計 20 点  
(配点は、当学院の予想です)

## 【2 級解説】

## 第 1 問

1. 配当金や利息は、その支払者によってあらかじめ源泉所得税が控除されて支払われます。この場合の配当金や利息を税引前の総額で計上する場合は、源泉所得税を「仮払法人税等」勘定で処理します。
2. 共通工事費は各勘定の金額比で配賦するため、各勘定の金額は以下のようになります。

$$\text{建 物} : ¥5,000,000 + ¥800,000 \times \frac{¥5,000,000}{¥5,000,000 + ¥2,000,000 + ¥1,000,000} = ¥5,500,000$$

$$\text{構築物} : ¥2,000,000 + ¥800,000 \times \frac{¥2,000,000}{¥5,000,000 + ¥2,000,000 + ¥1,000,000} = ¥2,200,000$$

$$\text{修繕費} : ¥1,000,000 + ¥800,000 \times \frac{¥1,000,000}{¥5,000,000 + ¥2,000,000 + ¥1,000,000} = ¥1,100,000$$

3. 仕入割戻時

( 未 収 金 ) 300,000 ( 仕 入 ) 300,000

4. 研究開発目的のみに使用される実験装置の取得原価は、すべて支出時の費用(研究開発費)として処理します。

## 第 2 問

## 問 1

各取引の仕訳は、以下のようになります。

平成 26 年 5 月 1 日 : ( 売買目的有価証券 ) 98,600,000 \* ( 未 払 金 ) 98,720,000  
( 有 価 証 券 利 息 ) 120,000 \*

$$* ¥100,000,000 \times \frac{¥98.60}{@ ¥100} = ¥98,600,000$$

平成 26 年 6 月 30 日 : ( 普 通 預 金 ) 180,000 \* ( 有 価 証 券 利 息 ) 180,000

$$* ¥100,000,000 \times 0.36\% \times \frac{6 \text{ ヲ月}}{12 \text{ ヲ月}} = ¥180,000$$

平成 26 年 10 月 31 日 : ( 未 収 金 ) 29,286,000 ( 売買目的有価証券 ) 29,580,000 \*<sup>1</sup>  
( 有 価 証 券 売 却 損 ) 330,000 \*<sup>2</sup> ( 有 価 証 券 利 息 ) 36,000

$$*1 ¥98,600,000 \times \frac{¥30,000,000}{¥100,000,000} = ¥29,580,000$$

$$*2 ¥30,000,000 \times \frac{¥97.50}{@ ¥100} - ¥29,580,000 = \triangle ¥330,000 (\text{売却損})$$

平成 26 年 12 月 31 日 : ( 普 通 預 金 ) 126,000 \* ( 有 価 証 券 利 息 ) 126,000

$$* ¥70,000,000 \times 0.36\% \times \frac{6 \text{ ヲ月}}{12 \text{ ヲ月}} = ¥126,000$$

平成 27 年 1 月 30 日 : ( 未 収 金 ) 39,292,000 ( 売買目的有価証券 ) 39,440,000 \*<sup>1</sup>  
( 有 価 証 券 売 却 損 ) 160,000 \*<sup>2</sup> ( 有 価 証 券 利 息 ) 12,000

$$*1 ¥98,600,000 \times \frac{¥40,000,000}{¥100,000,000} = ¥39,440,000$$

$$*2 ¥40,000,000 \times \frac{¥98.20}{@ ¥100} - ¥39,440,000 = \triangle ¥160,000 (\text{売却損})$$

平成 27 年 3 月 31 日：(売買目的有価証券) 60,000 \*<sup>1</sup> (有価証券評価益) 60,000  
 (未収有価証券利息) 27,000 \*<sup>2</sup> (有価証券利息) 27,000

\*1 簿価：¥98,600,000－¥29,580,000－¥39,440,000＝¥29,580,000

時価：¥30,000,000× $\frac{¥98.80}{¥100}$ ＝¥29,640,000

∴ ¥29,640,000－¥29,580,000＝¥60,000

\*2 ¥30,000,000×0.36%× $\frac{3\text{ヵ月}}{12\text{ヵ月}}$ ＝¥27,000

決算振替仕訳：(有価証券利息) 261,000 (損 益) 261,000

平成 27 年 4 月 1 日：(有価証券利息) 27,000 (未収有価証券利息) 27,000

### 問 3

各取引の仕訳は、以下ようになります。

平成 26 年 5 月 1 日：(満期保有目的債券) 98,600,000 (未 払 金) 98,720,000  
 (有価証券利息) 120,000

平成 26 年 6 月 30 日：(普通預金) 180,000 \*<sup>1</sup> (有価証券利息) 180,000

平成 26 年 12 月 31 日：(普通預金) 180,000 \*<sup>1</sup> (有価証券利息) 180,000

\*1 ¥100,000,000×0.36%× $\frac{6\text{ヵ月}}{12\text{ヵ月}}$ ＝¥180,000

平成 27 年 3 月 31 日：(満期保有目的債券) 275,000 \*<sup>2</sup> (有価証券利息) 275,000  
 (未収有価証券利息) 90,000 \*<sup>3</sup> (有価証券利息) 90,000

\*2 (¥100,000,000－¥98,600,000)× $\frac{11\text{ヵ月}}{56\text{ヵ月}}$ ＝¥275,000

\*3 ¥100,000,000×0.36%× $\frac{3\text{ヵ月}}{12\text{ヵ月}}$ ＝¥90,000

### 第 3 問

[資料]

#### 1. 約束手形の取立について

(当座預金)	20,000	(受取手形)	20,000
--------	--------	--------	--------

#### 2. 貸倒れについて

(貸倒引当金)	7,000	(売掛金)	9,000
(貸倒損失)	2,000		

#### 3. 貸倒引当金の設定について

(貸倒引当金繰入)	1,420 *	(貸倒引当金)	1,420
-----------	---------	---------	-------

決算整理後の貸倒引当金残高が貸倒見積高(受取手形及び売掛金期末残高の 2%)になるように、決算整理前残高との差額を繰り入れます。

\* (¥80,000－¥20,000＋¥130,000－¥9,000)×2%－(¥9,200－¥7,000)＝¥1,420

## 4. 売上原価の算定について

( 仕 入 )	41,000 <sup>*1</sup>	( 繰 越 商 品 )	41,000
( 繰 越 商 品 )	39,600	( 仕 入 )	39,600 <sup>*2</sup>
( 棚 卸 減 耗 損 )	480 <sup>*3</sup>	( 繰 越 商 品 )	1,458
( 商 品 評 価 損 )	978 <sup>*4</sup>		

\*1 期首商品棚卸高：決算整理前「繰越商品」勘定より

\*2 期末商品帳簿棚卸高：@¥120×330 個＝¥39,600

\*3 (330 個－326 個)×@¥120＝¥480

\*4 (@¥120－@¥117)×326 個＝¥978

## 5. 消耗品について

( 消 耗 品 費 )	9,000 *	( 消 耗 品 )	9,000
-------------	---------	-----------	-------

\* ¥15,000－¥6,000＝¥9,000

## 6. 消費税について

( 仮 受 消 費 税 )	169,600	( 仮 払 消 費 税 )	165,200
		( 未 払 消 費 税 )	4,400

## 7. 減価償却について

( 減 価 償 却 費 )	133,700	( 建物減価償却累計額 )	82,500 <sup>*1</sup>
		( 備品減価償却累計額 )	51,200 <sup>*2</sup>

\*1 既存分：¥2,100,000÷30 年＝¥70,000

当期取得分：¥900,000÷30 年× $\frac{5 \text{ カ月}}{12 \text{ カ月}}$ ＝¥12,500

\*2 (¥400,000－¥144,000)×20%＝¥51,200

## 8. のれんについて

( の れ ん 償 却 )	24,000 *	( の れ ん )	24,000
---------------	----------	-----------	--------

\* ¥144,000÷(10 年－4 年)＝¥24,000

## 9. 支払利息について

( 支 払 利 息 )	1,800 *	( 未 払 利 息 )	1,800
-------------	---------	-------------	-------

\* ¥300,000×1.8%× $\frac{4 \text{ カ月}}{12 \text{ カ月}}$ ＝¥1,800

## 10. 退職給付引当金について

( 退 職 給 付 費 用 )	35,000	( 退 職 給 付 引 当 金 )	35,000
-----------------	--------	-------------------	--------

## 11. 支払保険料について

( 前 払 保 険 料 )	2,460 *	( 支 払 保 険 料 )	2,460
---------------	---------	---------------	-------

\* ¥4,920× $\frac{6 \text{ カ月}}{12 \text{ カ月}}$ ＝¥2,460

## 第 4 問

工場元帳に設けてある勘定は、材料、賃金、製造間接費、仕掛品、製品、本社の勘定なので、工場側ではこれらの勘定科目しか使用することができません。工場側で使用できない勘定科目の代わりに「本社」勘定を使用すると考えましょう。

- (1)  $@800 \text{ 円} \times 3,000\text{kg} + @200 \text{ 円} \times 100\text{kg} + 20,000 \text{ 円} = 2,440,000 \text{ 円}$
- (2) 直接工直接賃金： $@1,500 \text{ 円} \times 2,760 \text{ 時間} = 4,140,000 \text{ 円}$ （→仕掛品へ）  
 直接工間接賃金： $@1,500 \text{ 円} \times 100 \text{ 時間} = 150,000 \text{ 円}$ （→製造間接費へ）  
 間接工間接賃金： $1,800,000 \text{ 円} - 200,000 \text{ 円} + 150,000 \text{ 円} = 1,750,000 \text{ 円}$ （→製造間接費へ）
- (4) 製造間接費予定配賦率： $\frac{30,240,000 \text{ 円}}{33,600 \text{ 時間}} = 900 \text{ 円/時間}$   
 予定配賦率： $900 \text{ 円/時間} \times 2,760 \text{ 時間} = 2,484,000 \text{ 円}$
- (5) 完成品原価： $5,500,000 \text{ 円} + 900 \text{ 円/時間} \times 2,250 \text{ 時間} = 7,525,000 \text{ 円}$

<参考：本社側の仕訳>

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)	工 場	2,440,000	現 金 預 金	2,440,000
(2)	仕 訳 不 要			
(3)	仕 訳 不 要			
(4)	仕 訳 不 要			
(5)	仕 訳 不 要			

## 第 5 問

当期の業績を直接原価計算方式の損益計算書で表すと以下ようになります。

売 上 高	5,000 万円
変 動 費	3,000 万円
貢 献 利 益	2,000 万円
固 定 費	1,800 万円
営 業 利 益	200 万円

問 1 損益分岐点の売上高とは、収益と費用が同額で利益がゼロとなるときの売上高です。この売上高を上回れば利益が、下回れば損失が生じることとなり、損益の分岐点として指標となります。

また、貢献利益率は売上高に対する貢献利益の割合です。貢献利益は売上高に対して比例する関係にあるため、貢献利益率は売上高の増減に係らず一定となります。

$$\text{貢献利益率} = \frac{\text{貢献利益}}{\text{売上高}} = \frac{2,000 \text{ 万円}}{5,000 \text{ 万円}} = 0.4$$

損益分岐点売上高を  $x$  とおくと、以下のように表せます。

売 上 高	$x$ 万円
変 動 費	$0.6x$ 万円
貢 献 利 益	$0.4x$ 万円
固 定 費	1,800 万円
営 業 利 益	0 万円

$$0.4x \text{ 万円} - 1,800 \text{ 万円} = 0$$

$$x = 4,500 \text{ 万円}$$



問 2 問 1 と同様に、利益が 400 万円となるように売上高を求めます。

売 上 高	x 万円
変 動 費	0.6 x 万円
貢 献 利 益	0.4 x 万円
固 定 費	1,800 万円
営 業 利 益	400 万円

$$0.4x \text{ 万円} - 1,800 \text{ 万円} = 400 \text{ 万円}$$

$$x = 5,500 \text{ 万円}$$

問 3 現在の売上高 5,000 万円が 10%落ち込んだときに損益分岐点の売上高は 4,500 万円と等しくなります。

問 4 売上高を 5,500 万円として計算します。貢献利益率は 0.4 のままです。

売 上 高	5,500 万円
変 動 費	3,300 万円
貢 献 利 益	2,200 万円
固 定 費	1,800 万円
営 業 利 益	400 万円

問 5 現在の損益分岐点の売上高は 4,500 万円ですので、売上高 4,400 万円として計算します。貢献利益率は 0.4 のままです。

売 上 高	4,400 万円
変 動 費	2,640 万円
貢 献 利 益	1,760 万円
固 定 費	1,760 万円
営 業 利 益	0 万円

固定費が 1,760 万円であれば、売上高 4,400 万円が損益分岐点となります。よって、現在の固定費 1,800 万円を 40 万円引き下げる必要があります。